

水野教育長記者会見 概要

日時：令和8年4月20日（月）16時00分～16時20分

場所：大阪府庁別館6階 委員会議室

教育委員会の取組みについて

【水野教育長より】

みなさん、こんにちは。よろしくお願いします。

今月の教育委員会の取組紹介は5点ございます。

○未来の教員確保事業について

教員志願者数が全国的に減少傾向となる中、将来の大阪の教員志願者を育成するため、高校生の教職に対する関心・興味を促す「未来の教員確保事業」を実施いたします。

実施にあたっては府立の11校が参画する「教育の扉プロジェクト実行委員会」と共催で行います。（参画校：夕陽丘・桜和・高槻北・八尾翠翔・河南・鳳・春日丘・清水谷・泉陽・寝屋川・八尾）

具体的には、まずキックオフ事業として、一般社団法人エッジソン・マネジメント協会の協力のもと、6月14日（日）に「教育版ミラッジ」を桜和高等学校にて開催します。主な内容は、未来の教育について、高校生、大学生、教育関係者を中心とした社会人で語り合う、多世代交流による対話型ワークショップです。教育という広い入り口から、教職に興味・関心をもってもらうことが目的（定員80～100名、募集時期は4月下旬～5月中旬を予定）です。

続いて、7月28日（火）に夕陽丘高等学校にて「教育フェスティバル」を開催します。

この取組は、教職に対して関心・興味のある高校生やその保護者等に向けて、「働きがい」や「働きやすさ」といった教職の魅力に関する周知を行うなど、生徒の意欲を高め、教職志願者の育成につなげることを目的としたイベント（定員300名、募集時期は6月上旬～7月中旬を予定）です。

いずれも、詳細が決定し次第、大阪府公立学校教員ポータルサイト等によりお知らせするとともに、参加者募集を行います。

○エキスパート教員採用選考について

大阪府教育委員会では、府立高校において、理数教育における高度な授業の実施と教員育成をすすめるため、「理数エキスパート教員」の採用選考を今年度、初めて実施します。

エキスパート教員には、理数分野における探求学習やプロジェクト型学習をリードしていくことを期待しており、理数分野における深い専門知識を有する人材を採用したいと考えております。

また、府立高校では英語教育における、高い英語運用能力や指導力を備える英語エキスパート教員も募集・採用し英語4技能に対応した授業づくりと、授業を担える教員の育成をすすめています。

現在、令和9年度当初採用選考の募集を行っており、5月15日金曜日の午後6時まで、出願を受け付けています。

皆様からの出願をお待ちしています。

○「大阪府災害時学校支援チーム『えん大阪』」の発表について

次は大阪府災害時学校支援チームについてです。フリップをご覧ください。

大阪府教育庁では、大規模災害発生時における学校教育活動の早期再開を支援するために、令和8年4月1日に、大阪府災害時学校支援チーム『えん大阪』を新たに立ち上げました。全国で13番目となります。

チーム員として必要な知識や技能を身に付けるため、今年度から研修を実施していき、40名程度のチームを構築してまいります。なお、本研修は学校の平時における防災体制の推進等につながることから、希望する学校の教職員等も参加できるように周知していく予定です。

本チームの具体的な活動としては、教職員の先生の負担軽減や子どもたちの居場所づくりのために、避難所となる学校の運営支援や調整、教育活動再開に向けた支援、児童生徒・教職員等への心のケアのサポートなどを行います。

「えん大阪」という愛称とした本チームは、被災地の子どもたちの学校教育活動再開のために「3つのえん」を通じて、大阪から支援に駆け付けます。この3つの「えん」とは、

- ・応援・支援と手をさしのべて助ける「^{えん}援」
- ・被災地の子ども・教職員とのつながりを大事にするえにしの「^{えん}縁」
- ・被災地支援を、丸い「^{えん}円」のように、チーム員が心一つにして、ワンチームで取り組むという思いを込めています。

災害時において、学校の早期再開は復興の象徴であり、教育は子どもだけでなく、保護者の心と生活を支える重要な基盤です。大阪府教育庁といたしましては、『えん大阪』の活動を通じて、被災地の子どもたちの学びを守り、安全・安心な教育活動の早期再開につなげられるよう、取り組んでまいります。

○大阪府立中央図書館はおかげさまで開館30周年！

大阪府立中央図書館は平成8年5月10日に開館し、今年で30周年を迎えます。令和8年度は、30年間の感謝をこめて、いろいろな展示やイベントを実施していきます。

第1弾として、5月に開催する記念展示では、中央図書館の歩みを年表や写真で振り返るとともに、300万冊を超える蔵書の中から特色ある本や、みなさまの調査・研究を支えるレファレンスサービスをご紹介します。

また、5月9日、10日の2日間は、特に著名な貴重書の特別展示を行います。ガリオ・ガリレイの「天文対話」、カントの「純粹理性批判」、ジャン・ジャック・ルソーの「社会契約論」、アダム・スミスの「国富論」など、17世紀から18世紀に刊行された、教科書でもおなじみの古典資料の原書をご覧ください。

5月2日は書庫見学ツアーの拡大版として、地下2階に新たに完成した書庫を初公開します。中央図書館内にある、国際児童文学館が所蔵する図書やマンガなどがずらりと並んでいます。私（水野教育長）も1月に見学しました。私も昔読んでいた懐かしいマンガ雑誌が、創刊号から最新号までずらりと並んでいる姿は圧巻でした。

注：国際児童文学館が所蔵する資料は貸出をしておらず、館内での閲覧に限っています。また、マンガ等一部資料の閲覧につきましては前日までの事前申込が必要になります。

そのほかにも、「30周年オリジナル缶バッジをつくろう！」イベントや、「貸出レシートをあつめよう！キャンペーン」などを実施します。

これらのイベントに参加いただいた方には、（30周年バッジをお示しいただき）このような30周年記念のバッジをプレゼントする予定です。

ぜひ展示やイベントにお越しいただき、「大阪府立中央図書館」を知って、活用してください。なお、「開館30周年記念企画 第2弾」は9月に実施予定です。詳しくはホームページをご覧ください。

注：ホームページは「大阪府立中央図書館 30周年」で検索いただくとヒットします。

<https://www.library.pref.osaka.jp/site/central/30thkinen.html>

○府立弥生文化博物館 春夏季企画展の開催について

次は、府立弥生文化博物館についてのお知らせです。

府立弥生文化博物館では、4月25日土曜日から8月30日日曜日まで春夏季企画展「Revisit 弥生文化：発見と研究の現在地」を開催いたします。

弥生文化博物館は1991年に、当時の弥生文化研究を結集して設立されました。その後の35年間にわたる発掘調査により、資料が大幅に増え、さまざまな観点に基づく新たな分析が進められてきました。その結果、かつての弥生文化の説明には大幅な修正が必要な状況となっています。

たとえば、弥生時代が始まった年代は、紀元前4世紀ごろと考えられてきたのですが、近年では、土器に付いたスズの分析によって実際にはこれより数百年古くなることが分かってきました。このような新しい見解が弥生時代の農業、戦い、交流などさまざまなことについて指摘されているのです。

現在、全国の弥生文化について解説する第一展示室が閉室していることから、この第一展示室の資料と、35年の間に新たに発見された資料を用いて、改めて弥生文化とはどのような文化であるのかということをとらえなおします。

また、会期中は週末を中心に、弥生文化研究の専門家による講演会や、弥生土器でお米を炊くワークショップなども開催します。

皆様のご来館を心よりお待ちしております。

詳細は、お配りしております資料をご参照ください。

質疑応答

○「大阪府災害時学校支援チーム『えん大阪』」について

(朝日放送)

まず、『えん大阪』についてですが、全国で13番目に立ち上げられたということですが、これまで教育委員会の方々は、県外で災害が起きた場合に支援活動はされていなかったということなののでしょうか。

(水野教育長)

これまでも、たとえば能登地震の際には、大阪府の職員が市町村や危機管理部門と連携しながら、現地の学校の支援はしてまいりました。今回は、こういうD-ESTという大きな枠組みの中で組織化をして、より支援体制を充実していくという意図でございます。

(朝日放送)

災害発生から大体どれくらいのタイミングで派遣するというイメージなののでしょうか。

(水野教育長)

今まさに、この『えん大阪』自体がまず研修からスタートする予定です。職員がどのような形で行けば、早期に被災地のニーズを受け止めながら進めていけるのか、といった研修のところから始めますので、ご指摘のどのタイミングでどういう形という点についても、このチームの立ち上げによって、より深めていけるのではないかと期待しています。

(朝日放送)

チームとして、いつでも出動可能というスケジュール感としては、いつ頃をめざしているのでしょうか。

(水野教育長)

チームとしては、担当に細かいところをご確認いただければと思いますが、4月1日から立ち上がったところですので、まず教育庁内で11名のコアメンバーでスタートしています。そこから今年度中に40名体制を構築していきます。実際に被災地に派遣する場合は、そのコアメンバーがどういうチームを作って、どのタイミングで派遣するのかというのは被災地状況によっても変わってくると思いますが、まずは、その常日頃からこういうチーム体制で動くという基盤を作ることが重要だと考えています。

○不登校児童生徒支援『ほっとS』について

(朝日放送)

先日、八尾翠翔高校の取り組み『ほっとS』をご覧になったということで、その評価を改めて教えてください。

(水野教育長)

はい、良い取り組みだと思います。

というのも、いくつかの視点で評価できると思いますが、まず、八尾市にいる小中学生の不登校の子どもたちの居場所として、校内支援ルームや教育支援センター、メタバースなど複数の選択肢はあったのですけれども、さらにもうひとつ、八尾翠翔高校という場が使えるのだということで、選択肢が増えたことは良かったのではないかと思います。

そして、われわれ府立高校の設置者の視点で言いますと、小中学生の不登校の子どもたちが八尾翠翔高校の『ほっとS』に来て、「この学校なら落ち着ける、安心できる」と思ってくれて、八尾翠翔高校をめざしてくれれば大変うれしいことです。また、八尾翠翔高校には教職トライコースもございまして、その関わりというものこれからどうなっていくのかというのは大変楽しみにしているところではあります。

○修学旅行の安全性等の調査について

(読売新聞)

先週15日の知事会見の際に、沖縄での同志社国際高校の事故に関連して、知事から安全性が確認されていない修学旅行について確認すべきとの意見がありましたが、教育庁内でどのような対応を考えていますか。

(水野教育長)

はい、私も知事の会見を見ましたけれども、まず、修学旅行という子どもたちが大変楽しみにしている学びの場で尊い命が失われてしまったことは重く受け止めなければならないと思います。また、それが事前に十分説明されていなかったという点も大変重たい問題だと受け止めています。

その上で、大阪府教育庁として、安全管理や事前説明がどの程度なされていたのか、また平和学習という文脈の中で政治的中立性の観点はいかがだったのか、諸々課題として挙がっていたと感じています。

府立高校および私立学校に対して、安全対策や旅行会社との関係、今回の団体の利用の有無、政治的中立性の担保の方法などについて精査をして調査を実施する予定です。

(読売新聞)

それは全校対象に回答期限を設けて、書面調査を実施するということですか。

(水野教育長)

はい、そのとおりです。

○「大阪府災害時学校支援チーム『えん大阪』」について

(読売新聞)

あともう一点、『えん大阪』について、もしかしら担当の方に伺った方が良いかもしれませんが、保健体育課が担当になっているのは、得意な分野があるからか理由をおしえてください。

(水野教育長)

保健体育課といいますか、総務企画課と協力してやっております。

保健体育課については、安全教育が入っておりますので、そこの知見を反映させていきたいという意図です。

ぜひ保健体育課と総務企画課と両方に取材していただければと思います。

○修学旅行の安全性等の調査について

(共同通信)

今回の辺野古での事故について、知事から教育委員会に直接指示等はあったのでしょうか。

(水野教育長)

秘書を通じて、発言があったということは共有されています。

(共同通信)

調査の回答期限について、具体的な時期は決まっているのでしょうか。

(水野教育長)

現時点では未定ですが、私としては早急に、1 か月程度で回答を得たいと考えています。4月始まったところではあるので、学校の負担面も見つつ、適切に進めたいと思います。

(共同通信)

結果については公表されるのでしょうか。

(水野教育長)

まずは知事へ報告することになります。

(教育長発言・補足)

ベーゼンドルファーのピアノの件ありましたが、NHK にも取り上げていただき、ご取材いただきましたが、大阪の教育に対する投資や支援の動きが広がっていると感じています。民間企業との連携による探究学習なども進んでおり、教育環境の投資の充実が進んでいます。

今年度はアクションプランの始動元年として、各施策を順次進めていきますので、担当課にも取材いただければありがたいと思います。大阪の教育が前向きに変わっていく、その機運を作っていきたいと考えていますし、記者の皆様にもぜひたくさん取材いただければありがたいと思っております。

(これは記者会見の概要であり、発言内容をそのまま記録したものではありません。)